

第 22 節 腫瘍内科研修〔選択科向け研修〕

一般目標

悪性腫瘍をもつ患者に対して、がん薬物療法を主軸として基本的で体系的ながん診療ができるための一般の知識と技能の習得を目指す。とくに臓器横断的に集学的に診療方針を立案・実行できることを目標とする。

実臨床研修

- ① 毎日の回診あるいは申し送りにおいて、入院・外来担当患者について問題点を提示し、指導医、上級医と検討を行う。
- ② 入院担当患者の病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容、治療方針などについて指導医、上級医と討論、確認を受ける。
- ③ 救急患者、予約外患者の診察にも参加し、自ら病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容、治療方針などについて指導医、上級医と討論、確認を受ける。
- ④ 自身が担当した外来患者を主治医として上級医の指示のもと担当し、継続的に診療する。
- ⑤ 症例カンファレンスにおいては、症例を提示し、指導医、上級医との討論を行う。
- ⑥ 学会や研究会での発表を行い、上級医の指導のもと論文を作成する。
- ⑦ 日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、およびその関連学会などが主催する教育講演などに参加して学習する。
- ⑧ 毎週行われる他職種と合同のカンファレンスにおいて、自らの担当患者の問題点をプレゼンテーションし、討論して解決策を見出す。
- ⑨ 毎週開催される他科との合同の症例カンファレンスに参加し、議論を通して、がんに対する集学的治療を経験する。
- ⑩ 毎週開催される、がんゲノムエキスパートパネルに参加し、自らの担当患者の経過をプレゼンテーションし、検査結果の解釈を検討する。

具体的目標

臨床腫瘍学(腫瘍内科学)に関する体系的な習得を目指す。

がん患者の生存延長のみではなく、QOL 向上を伴う、がん診療を実現することを目指す。

- ① 内科的一般診察、検査、手技に加え、全身疾患としての悪性腫瘍の診断、検査法の習得。腫瘍の定義・疫学・発がん機序を説明できる知識の習得。
- ② がん薬物療法の基本原則の理解
- ③ がん薬物療法の意義・目的の理解
- ④ 抗悪性腫瘍薬の分類・作用機序の理解
- ⑤ 集学的、チーム医療の中でのがん薬物療法の役割の理解

- ⑥ ①～⑤を通じ、治療方針の立案・実践を立てることができる。
- ⑦ がん薬物療法の副作用と支持療法の管理実践
- ⑧ 腫瘍随伴症候群や腫瘍学的緊急症への対応
- ⑨ ①～⑧を通じ、十分な説明と治療目的共有を持って患者や家族の信頼を得て良好な人間関係を構築できる。
- ⑩ 他診療科、他職種とのチーム医療の実践(包括的な診療を実践)
- ⑪ 緩和医療の知識と手技の実践(全人的医療の実践)
- ⑫ がんゲノム医療の現状を知る。

(疾患)

1. 消化器癌

- 1) 胃癌
- 2) 食道癌
- 3) 小腸癌
- 4) 大腸癌
- 5) その他

2. 泌尿器癌

- 1) 膀胱癌
- 2) 尿路上皮癌
- 3) 腎臓癌
- 4) 前立腺癌
- 5) その他

3. 乳癌

- 1) 乳癌
- 2) その他

4. その他の悪性腫瘍

- 1) 原発不明癌
- 2) 肉腫(悪性軟部腫瘍)
- 3) 神経内分泌腫瘍
- 4) 頭頸部癌
- 5) その他

研修評価

- ① 上級医、指導医との討論において症例の理解度の評価
- ② 入院患者退院時のサマリーでの理解度の評価
- ③ 病院の共通の評価用紙での総合的評価

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	(土)	(日)
午前	朝カンファランス 外来・病棟	朝カンファランス 外来・病棟	朝カンファランス 外来・病棟	朝カンファランス 外来・病棟	朝カンファランス 外来・病棟		
午後	多職種カンファランス 泌尿器カンファランス 外来・病棟	腫瘍内科カンファランス 外科カンファランス 外来・病棟	外来・病棟	頭頸部カンファランス(隔週) 抄読会・リサーチカンファランス 外来・病棟	血液内科エキスパートパネル 骨転移カンファランス 東大がんゲノムエキスパートパネル 外来・病棟		